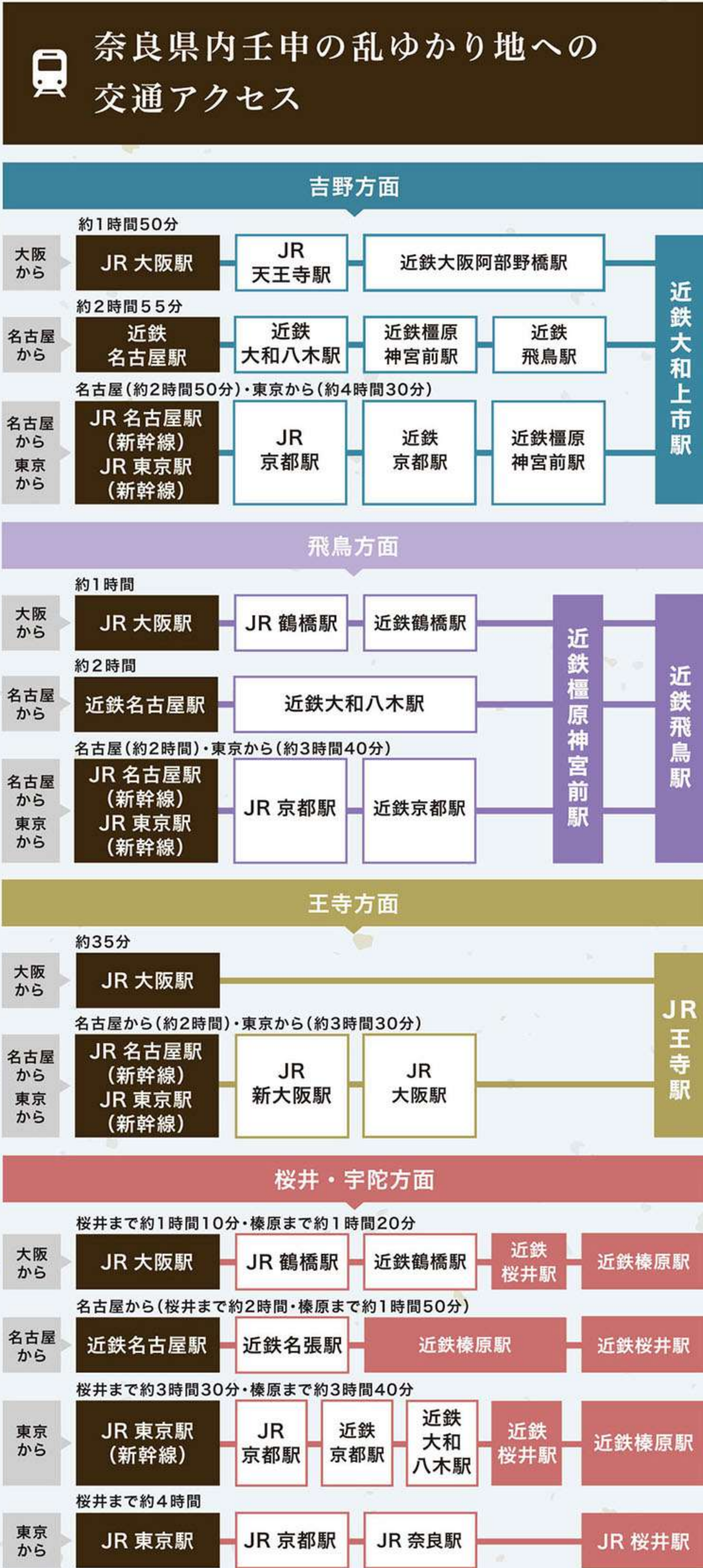


## 壬申の乱とは？

今から1350年前、天武天皇元年(672)に、天皇の後継をめぐる今の奈良県、三重県、岐阜県、滋賀県などの広域を舞台に展開した古代史上最大の戦乱です。当時、皇位は兄弟で継承していくことが慣例であったと考えられていますが、時の天皇、天智天皇は弟である大海人皇子(おおあまのみこ・後の天武天皇)ではなく自身の息子である大友皇子(おおとものみこ)を後継にしようとします。身の危険を感じた大海人皇子は出家して、妻である鸕野讃良皇女(うののさららのひめみこ・後の持統天皇)とともに、当時の都であった滋賀県の大津宮を離れ、奈良県の吉野に隠棲しました。

その後、大津宮で天智天皇が亡くなり、大友皇子が後を継いだものの、大海人皇子が兵を挙げ、大友皇子の軍(近江朝廷軍)との戦いが始まります。大海人皇子は兵を集めつつ吉野から伊賀、伊勢方面へと身を移し、東国からの近江朝廷軍への増援を防ぐために美濃の不破の関(いまの関ヶ原)を封鎖しました。十分に兵を集められなかった近江朝廷軍は、その後大和や近江などで奮闘しますが、最後は瀬田川の合戦で大敗し、大友皇子が自害して、大海人皇子軍の勝利で戦は終わりました。乱が終了した後、大海人皇子は都を飛鳥に戻し、天皇に即位して(天武天皇)、新しい国の政治を始めました。天武天皇の死後、皇后であった鸕野讃良皇女は皇位を継承して持統天皇となり、天武天皇の政治を引き継いでいきました。

この「奈良県壬申の乱 ゆかり地マップ」では、大海人皇子軍と近江朝廷軍の軌跡をたどり、壬申の乱のゆかりの地をご紹介します。ぜひ現地足を運び、当時の情景に思いを馳せてみてください！



NARA PREFECTURE 奈良県  
なら紀紀・万葉  
令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

## 壬申の乱全体マップ

### 10 大津宮



大津宮中核建物復元模型  
写真提供：大津市歴史博物館

667年、天智天皇は飛鳥からこの地に都を遷しました。天智天皇の死後、長子である大友皇子が皇位を継承しますが、壬申の乱の敗北により、都は再び飛鳥へと戻されます。大津宮関連の資料が展示されています。

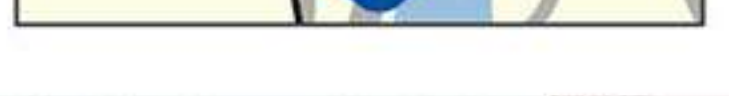


### 9 瀬田川

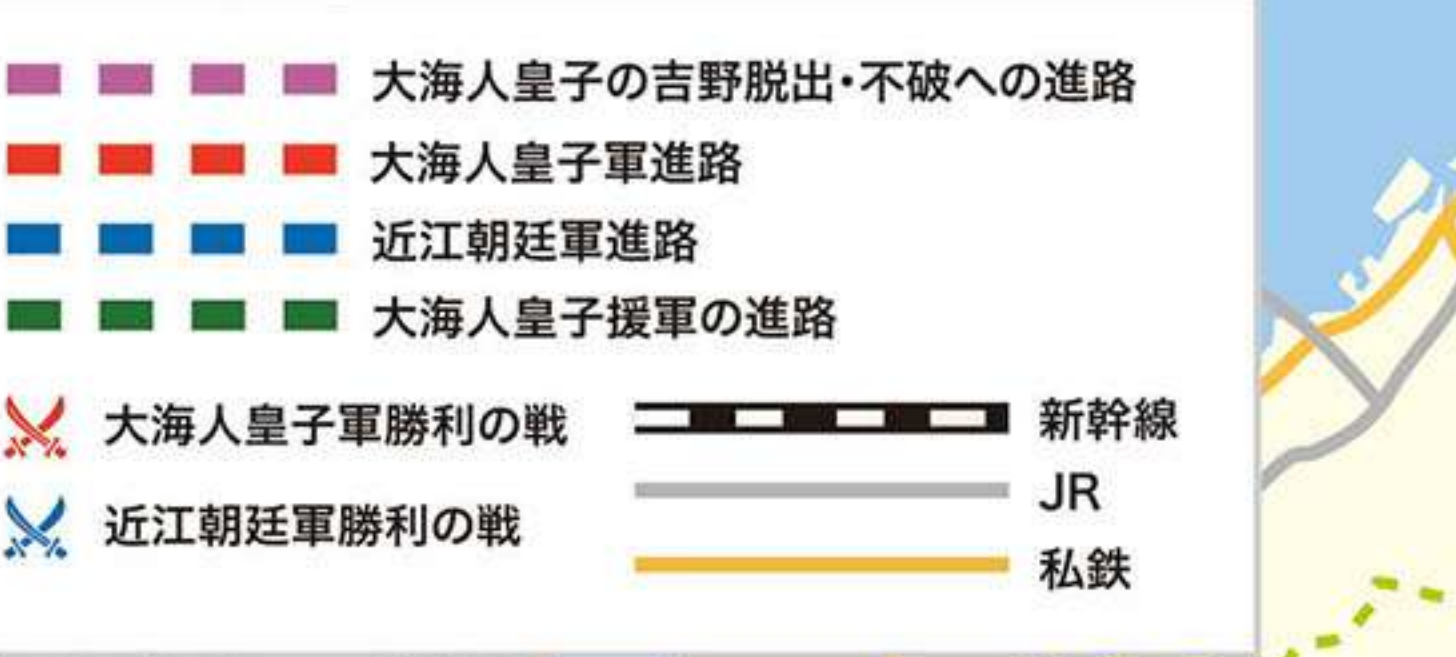


古代の瀬田橋復元模型  
写真提供：大津市歴史博物館

追い詰められた近江朝廷軍は最後の決戦の場所として瀬田川の西に陣を構えました。しかし勢いに勝る大海人皇子軍を防ぐことはできず、大友皇子はその後自害します。壬申の乱当時の瀬田橋は現在の橋より下流側にかかっていたことが発掘調査により明らかになっています。



壬申の乱は現在の奈良県吉野での大海人皇子の挙兵により始まりましたが、奈良県だけでなく、三重県、岐阜県、滋賀県、京都府、大阪府といった広範囲にわたって戦が繰り広げられました。



・記載の日付は、日本書紀記載の日に基づき、旧暦で掲載しています。  
・進路図や戦の場所については、紙面の都合上簡略化して表示しています。  
・また、進路・戦の場所についての見解の相違についてはご了承ください。



### 4 不破関跡



大海人皇子軍は、近江朝廷軍への東国からの増援を防ぐため、不破関を封鎖。大海人皇子軍勝利の鍵となりました。大海人皇子は不破に入り、野上行宮(かりみや)を設けました。不破関資料館では不破関の壬申の乱に関する資料が展示されています。



### 3 天武天皇

とがわごようはいじよあと 迹太川御遣所跡



東国へ向かう大海人皇子一行が迹太川の辺りで天照大神に勝利を祈願したといわれています。くるべ古代歴史館では、壬申の乱関連の展示を見ることが出来ます。写真提供：四日市市教育委員会



奈良エリア拡大図範囲



⑥ 高安城



河内方面からの近江朝廷軍を迎え撃つため、將軍吹負が派遣した河内方面への部隊が陣取った城。進軍してくる近江朝廷軍に山を下って戦を挑むも軍勢を防ぐことができず、退却を余儀なくされました。写真は6棟分が確認された奈良時代のもので推定される礎石建物跡のひとつですが、壬申の乱当時の高安城の場所は明らかになっていません。  
写真提供：平群町教育委員会



【交通アクセス】  
高安城2号礎石建物  
近鉄大阪線 河内山本駅から近鉄信貴線に乗り換え信貴山口駅下車。近鉄西信貴ケーブルに乗り換え高安山駅下車、徒歩約25分



壬申の乱における奈良県内及び近隣での戦いは、飛鳥古京制圧、衛我河の戦い、乃楽山の戦い、当麻の葦池の戦い、箸陵の戦いの順番で起こったことが日本書紀に記されています。なお、地図上では日本書紀に戦いが起こった日が記されているものについては、日付を記載しています。

- 大海人皇子の吉野脱出・不破への進路
- 大海人皇子軍進路
- 近江朝廷軍進路
- 大海人皇子援軍進路
- 大海人皇子軍勝利の戦
- 近江朝廷軍勝利の戦
- JR
- 私鉄



D: 乃楽山の戦い

7/4 大伴連吹負が墨坂方面に敗走

⑦ 村屋坐弥富都比賣神社・中ツ道



中ツ道に鎮座する神社。壬申の乱における大和方面の戦いでは大海人皇子の軍営において、事代主神、生靈神、村屋神が人々にのりつり、近江朝廷軍の襲来を予告。後に天武天皇はこの三神の位階を上げて祭祀したと日本書紀に記載されています。



【交通アクセス】  
むらやにいますみふつひめじんじや 村屋坐弥富都比賣神社  
近鉄橿原線 田原本駅から東へ約2.5キロタクシーで約10分(田原本駅前にはレンタサイクルあり)JR 桜井線 巻向駅から西へ約2キロ 徒歩約30分

⑧ 箸陵(箸墓古墳)・上ツ道



一進一退の攻防を繰り返した奈良盆地での戦い。中ツ道を進軍してきた近江朝廷軍に將軍吹負は苦戦しますが、上ツ道で展開された箸陵の戦いでは大海人皇子軍が近江朝廷軍を打ち破りました。勝利に乗じた上ツ道の大海人皇子軍は、中ツ道の吹負を救援し、この方面での戦いを制しました。桜井市立埋蔵文化財センターでは、桜井市の石器時代から飛鳥・奈良時代までの資料が常設展示されています。



【交通アクセス】  
箸墓古墳  
JR 巻向駅 徒歩約10分

② 菟田の吾城



吉野宮を出た大海人皇子一行が、後続たちと合流。その後、一行は伊賀、伊勢へと進路を取り、美濃へと向かいました。現在この辺りは阿騎野・人麻呂公園として整備されています。写真提供：宇陀市観光課



【交通アクセス】  
阿騎野・人麻呂公園  
近鉄橿原駅下車 奈良交通バス 大宇陀行き 20分 バス停：大宇陀高校前徒歩約5分

大阪府

奈良県

C: 衛我河の戦い

E: 当麻の葦池の戦い

F: 箸陵の戦い

⑦

⑧

⑤

①

②

⑤

①

A: 飛鳥古京制圧

①

⑤ 飛鳥浄御原宮(飛鳥宮跡)



壬申の乱に勝利した大海人皇子がこの地に宮を造り、新しい国の政治を行いました。後の持統天皇即位の儀式もここで行われました。橿原考古学研究所附属博物館、飛鳥資料館には、飛鳥宮跡からの出土物や復元模型が展示されています。



【交通アクセス】  
飛鳥宮跡  
近鉄 橿原駅前又は飛鳥駅より明日香周遊バス「岡天理教前」下車 徒歩約5分

奈良地域の壬申の乱

天智天皇の時代、都は近江に遷っていましたが、それまで都は飛鳥にありました。壬申の乱でもそれまで都のあった飛鳥古京は依然として両陣営にとっては重要な地域であったため、奈良県でも両軍の激しい戦いが繰り広げられました。ここでは奈良県域における主な戦いの経緯を紹介します。(※下記文章冒頭のアルファベットは、地図上のアルファベットに対応しています。)

大海人皇子ら一行が兵を挙げるため吉野から東国に出発した6月下旬、大和にいた大伴連吹負(おおとものむらじふけい)は皇位を継がれるのは大海人皇子であるべきだと考え、戦の準備を始めます。

A: 6月29日、吹負はまず飛鳥寺近辺にあった近江朝廷側の軍営を、奇策を講じて占拠。吉野を離れ、不破で指揮をとっていた大海人皇子はこの報告を喜び、吹負を將軍に任命したと日本書紀に記載されています。飛鳥制圧の情報が各地に伝わり、大和にいた有力な武将たちも將軍吹負の元に集まります。

B: 7月1日、吹負の軍は近江を攻めるために北上を開始。稗田に至った時、河内方面から近江朝廷軍が迫っているとの情報を得た吹負は軍の一部を分割し、河内方面への部隊として西へ向かわせました。

C: その後、高安城に駐屯していた河内方面への部隊は、東へ進軍する近江朝廷軍を発見。衛我河(現石川)付近で戦いますが、近江朝廷軍の勢いに押され退却。

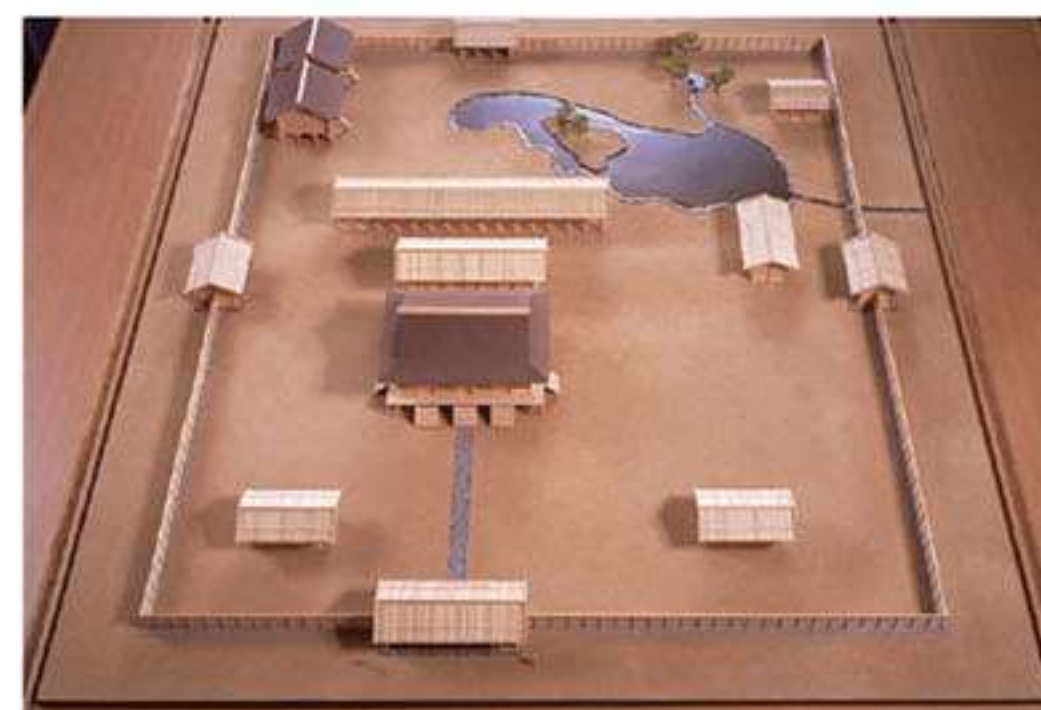
D: 7月4日、吹負の軍も乃楽山(現在の奈良市北部)にて南下してきた近江朝廷軍と戦いますが、こちらも惨敗し敗走。しかし逃走の途中、墨坂で味方の援軍と出会い、金網井(現橿原市今井町か)にて兵を立て直し、今度は西からの近江朝廷軍に向かって進軍。

E: 当麻の葦池にて近江朝廷軍と戦い、勇士来目の活躍もあり、勝利します。

本営に戻り、伊勢方面から到着した大海人皇子援軍本体と合流した吹負は、当時奈良盆地を南北に貫く幹線道路だった上ツ道、中ツ道、下ツ道に軍を分けて配置。吹負自身は中ツ道に布陣します。近江朝廷軍は中ツ道の吹負の軍営を急襲。不意を突かれた吹負の軍は混乱しますが兵の決死の反撃でなんとか近江朝廷軍を食い止めます。

F: 一方、そこから約2km東方の上ツ道の箸墓付近でも大海人皇子軍と近江朝廷軍が激突。ここでは大海人皇子軍が近江朝廷軍を大破し、勝ちに乗じて中ツ道の吹負を救援し、近江朝廷軍は挟撃に軍を支えきれず、敗走しました。これを最後に近江朝廷軍は大和の地には攻めてこなくなりました。

その後、7月22日、近江では大海人皇子軍が瀬田川での決戦に勝利して、壬申の乱は終結に向かいます。



出家して大津宮を去り、吉野に入った大海人皇子が、大友皇子を討つべく妻の鸕野讃皇女とともに兵を挙げた地。吉野歴史資料館では、吉野宮復元模型などの展示資料をご覧ください。写真提供：吉野町



【交通アクセス】  
吉野歴史資料館  
近鉄大和上市駅からスマイルバス Bコースまたはやまぶきバス。宮瀧バス停下車北へ300メートル 徒歩約3分



① 吉野宮

6/24 大海人皇子吉野を脱出

進路図や戦の場所については、紙面の都合上簡略化して表示しています。また、進路・戦の場所についての見解の相違についてはご了承ください。